

さいたま市民医療センターにて皮膚・軟部組織感染症で ご加療中の方へ

当院では、皮膚・軟部組織感染症における、毒素産生性黄色ブドウ球菌感染症の関与について、東京薬科大学と共同研究を行っております。この研究は、黄色ブドウ球菌の細菌学的特徴や毒素産生株の伝播経路を明らかにすることで、各疾患の治療や予防の一助となるばかりでなく、公衆衛生学的に重要な情報になると考えられています。

【研究課題】

当院の黄色ブドウ球菌の分離状況と、薬剤耐性の違いによる皮膚・軟部組織感染症の予後の違いについて (2025-19)

【研究機関名及び本学の研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 さいたま市民医療センター 感染対策室

研究責任者 蒲池 清泉 (感染対策室 看護師)

担当業務 データ収集・匿名化・データ解析

【共同研究機関】

研究機関 東京薬科大学 薬学部 臨床微生物学教室

教授 中南 秀将

担当業務 遺伝子検査

【研究期間】

2019年4月～2027年3月

【対象となる方】

2019年4月1日～2027年3月31日の間に当院皮膚科、小児科で皮膚・軟部組織感染症で受診された患者さんで、皮膚・軟部組織の膿などの浸出液から黄色ブドウ球菌が分離された方。

【研究の意義】

黄色ブドウ球菌に焦点を当て、細菌学的特徴や毒素産生株の伝播経路を明らかにすることで、各疾患の治療や予防の一助となるばかりでなく、公衆衛生学的に重要な情報になると考えられます。

【研究の目的】

当院における、皮膚・軟部組織から分離される MRSA は、2020 年度の 38.64% から 2024 年度には 18.03% へと減少していますが、毒素産生株についての検討は行われていません。本研究では、当院における PVL 産生株の推移と薬剤感受性について、関係を明らかにすることにあります。

【研究の方法】

この研究は、さいたま市民医療センター倫理委員会の承認を受け実施するものです。これ

までの診療でカルテに記録されている、皮膚・軟部組織を材料とする培養検査結果を収集して行う研究です。すでに、東京薬科大学で、当センターで分離された、黄色ブドウ球菌の遺伝子解析を行い、解析結果を電子的配信で受け取っているため、提供された遺伝子解析結果と合わせて行う研究です。特に患者さんに新たにご負担いただくことはありません。

【個人情報の保護】

この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は、外部に漏えいすることのないよう、慎重に取り扱う必要があります。

あなたの培養結果・ゲノム解析結果は、解析する前にあなたの個人情報とは一切連結できないようにした上で、感染対策室において蒲池 清泉が、パスワードロックがかけられた電子カルテの端末で、パスワードロックをかけた Excel ファイルで厳重に保管します。そのため、同意を取り消すこと及び個人の結果をあなたにお伝えすることはできません。

遺伝子解析については、すでに当センターと東京薬科大学間での匿名化法則に準じて取り扱います。

この研究のためにご自分あるいはご家族のデータを使用してほしくない場合は、下記の研究事務局まで 2026年3月31日までにご連絡ください。ご連絡をいたしかなかつた場合、ご了承いただいたものとさせて頂きます。

研究結果は、個人が特定出来ない形式で学会等で発表されます。収集したデータは厳重な管理のもと、研究終了後5年間保存されます。

本研究に関して、開示すべき利益相反関係はありません。

尚、あなたへの謝金はございません。

【問い合わせ先】

さいたま市民医療センター 感染対策室

住所：埼玉県さいたま市西区島根299-1

電話：048-626-0011